

「Trace」について

3曲入りのミニアルバム「Trace」、LIVEでのリリース(2012年9月22日)発売ということもあり、CDのリーフレットには解説文を掲載しました。しかし、LIVEに来て下さった方が知人に贈りたいと購入してくださったり、LIVEに来られなかった方がCDだけでも欲しいと言って購入して下さったり、FMノースウェーブ「スマイル・マルシェ」で曲が紹介され、それも聴いて購入してくださった方の為にタイトルの由来や、曲の解説があれば聴き方が変わるのではないかと思います。簡単にまとめて紹介させて頂きますので、宜しければ参考にさせて頂けると嬉しいです。

タイトルのTraceは私たちの音を聴いてくれた信頼ある知人からの感想の言葉からヒント得た単語です。「跡、足跡、影響」等の意味があります。

un Son de la Lumière

アン・ソン・ドウ・ラ・リュミエールと読みます。これは、笛吹き佐藤良枝とパーカッション奏者常松将行が結成したユニット名です。結成したのは2010年です。正確には2009年の暮れ。佐藤はフルートの他にガラスで出来たクリスタルフルートという横笛も吹いています。フルートとは似ているけれど、しかしまったく別物のような楽器です。とても素朴な音ですが、音程が不安定で、しかもピッチが低すぎて、どの楽器とも合いません。電子ピアノ(ピッチを合わせられるので)とか、ギターとのデュオでこの楽器を紹介してましたが、なかなか、この我儘娘(クリスタルフルート)の良さを表現できませんそれでも、LIVEをやってほしいという声があり、何とかこの楽器の良さを引き出せないかと、、、そこで佐藤が考えついたのが、パーカッションとならピッチで曲を損なうことが無いのでは?ということで今札幌で活躍する才能溢れる若きパーカッション奏者、常松に話をもちかけたのです。

ドラムセットでチャレンジしたのが2010年3月のカフェでのLIVEで、サウンドは面白いものになりましたが、まだ研究する余地があるものでした。実はこのユニット名は、この時に来ていただきましたお客様につけてもらったもので、フランス語のson=音、lumière=光という単語からなり、“un Son de la Lumière”

で「光の音」という意味になります。長くて読みづらい、しかも覚えられないかもしれないけれど、素敵なのでどこも削ることなく使わせて頂いています。

その後2011年からはLIVEで試験的にいろいろな要素を取り入れながら模索してきました。しかし、どうもこの組み合わせはオリジナルを作って表現した方が良いのではということになり、今回オリジナルサウンドを追求し、録音に至りました。

今回常松が使用したのは和太鼓のセットです。佐藤はこの組み合わせは正直思いつきませんでした。とても相性の良い組み合わせだと認識しています。先祖から代々受け継がれてきた日本の魂みたいなものが呼び起されたような感覚もったからです。そして、LIVEではクリスタルフルートに拘らず、一般的な銀のフルートなど様々な笛族を、パーカッションも様々なものを取り入れるようになりました。今後はどのように発展していくのか、私たちにも分かりませんが、これを期にun Son de la Lumièreの音楽を好きになって頂ければ幸いです。

<曲目解説>

1. **Tomorrow** (佐藤良枝作曲)・・・私の作品としてはこれが初めての曲になります。作風は最初に、あるフレーズが生まれ、そのフレーズがテーマになり全体的なイメージが浮かびます。浮かんだ4小節フレーズから、昨年3月11日に起こった東北大震災が脳裏に浮かびました。あの震災の後、あまりのショックと悲しみが日本中を飲み込み、私自身何か月も虚無感と無力感に襲われました。こうして生きてても何もできない自分・・・。しかし、誰でも生きている以上、明日がある。だから、テーマの部分は、少しずつ、一步一步、明日の為にきつと歩き出せるかもという、強引な前向きさではなく、心の奥から静かに湧く希望や願いを表現したつもりです。イントロの部分は実は後で追加したもので、D調クリスタルフルートの後に微かに聞こえる太鼓(耳を澄まして聴かないとはっきり聞こえません)は静かな、でもしっかりと歩みを表現しています。全体的に揺らぎを感じさせ、クリスタルフルートでしか表現できないものだと思っています。

使用楽器：Dクリスタルフルート、Gクリスタルフルート、和太鼓セット、その他パーカッション小物

2. **雨上がり** (佐藤良枝作曲)・・・この曲はとても単純に、短時間で出来た曲です。人間の持つ明るさや無邪気さを音にしてみたく作りました。ここの雨はにわか雨とか、通り雨のようなもので、突然予想していなかった短時間に降る雨です。降り止んだ時に、一斉にいそいそと行動しようとする姿や気持ちを表現しています。ある意味、お祭りみたいなイメージです。

使用楽器：Dクリスタルピッコロ、和太鼓セット、その他パーカッション小物

3. **足音** (常松将行作曲)・・・常松作品は先にメロディーから完成し、そこからタイトルが付けられるようです。テーマ部は変拍子で作られており、彼は「一定であり、一定でない」と表現していましたが、不安定さは感じられず、曲調がAマイナーでありながら、しっかりした前向きな足音に聞こえます。その後力強い太鼓のアドリブ、続いて太鼓の響きの上でフルートが自由にアドリブを取ります。最後は以前よりもしっかりとしたテーマの足音で終わります。この作品はしっかりと常松ならではのリズムが根底にあり、私は何度も聴きたくなる素敵な曲だと思います。常松曰く、この曲は数十分で浮かんで完成した曲だそうで、このCDタイトルTraceのために自然と生まれたように感じます。

使用楽器：コンサートフルート(一般的な銀のフルート)、和太鼓セット、その他パーカッション小物

文/佐藤良枝

2012年10月

un Son de la Lumiere

<http://son-lumiere.jimdo.com/>

son-lumiere@corylus3.com